

石川県七尾美術館だより

平成17年4月1日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第41号(春号)



ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



「国宝・松林図屏風 長谷川等伯展」より
国宝「松林図屏風」

長谷川等伯 天文8～慶長15（1539～1610）
桃山時代
縦 156.8 横 356.0
東京国立博物館蔵

展覧会紹介

平成17年4月1日(金)

6月26日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

開館十周年を迎えるに当たって

館長 嶋崎 丞

平成七年の四月二十八日、この日はまるで初夏を思わせるような日和でした。多少興奮していたせいもあったかも知れませんが、ホールでの開会式は空調が思うように効かず、額から汗が零れ落ちるような暑さであったことを覚えています。

あの時から早くも十年の月日が経ちましたが、あつという間の十年間であつたように思います。十年の間に開催した展覧会は美術館の企画展と各種美術団体とが開催した展覧会をあわせて二百十回を越えています。そして開館以来の総入館者数は、三月末日で三十六万五千人に達し、地方の小さな公立美術館としては、地域の多くの人々に愛され、よく利用されている美術館として成長してきたのではないかと思っています。

私は、開館時に刊行した「石川県七尾美術館だより」の開館特集号の中で、「公立美術館は、その地域に育まれた地域文化を守り育てる役割と、地域住民に対して、優れた芸術文化に触れる機会を提供する役割とがある」ことを述べていますが、ここ十年間での美術館活動で、その役割はほぼ果たせるようになって来たのではないかと思っています。

地域で育まれた芸術文化の代表としては、何といても長谷川等伯を忘れることはできません。長谷川等伯は中世室町時代の末期、能登の守護畠山氏の城下町七尾で出生し、早くから仏画の絵師としての才能を発揮し、三十歳を過ぎてから上洛して、のち千利休などとの出会いから桃山時代を

リードする画聖として大成しました。そうした等伯を顕彰する意味でも、美術館活動の中心に長谷川等伯を据えることは、この地域に設立された美術館としては当然考えなければならないことでした。

しかし周知のとおり、等伯の作品は、そのほとんどが納まる場所に納まっており、また文化財に指定されているものが多いところから、等伯を美術館活動の中心に据えるとはいえないものの、開館間もない地方の美術館で、そう簡単に等伯の作品を展示するということは、実現不可能に近いのが現状でした。

そこで、まず能登地域に所在する等伯の若い時代、信春時代の仏画から展示を始めようということにしました。しかし展示する作品のなかには、信春時代の作品であっても、日本的に広く知られている代表作をも加えるべきとの見地から、東京国立博物館所蔵の「伝名和長年像」「牧馬図屏風」、京都本法寺の「日堯上人像」等、三点の指定文化財のご出品を頂いて第一回目の長谷川等伯展を盛大に終了することができました。

この第一回の長谷川等伯展に勢いづいて、二回目以降も多くの所蔵者の方々からご協力を得て、長谷川等伯展は次第に注目される展覧会に成長してきました。

そして四回目が開館五周年の年に当たり、また七尾港開港百周年・七尾市制施行六十周年を迎える節目の年であることから、記念の年にふさわしい豪華な内容にならないかという話題が持ち上がりました。

それには他ならぬ七尾市本庁舎の入口の、吹き

抜け壁面に掲げられている陶板の原画、京都智積院所蔵の国宝「楓図」の展示が実現できないかということになりました。幸いなことに、智積院の七尾に対する深いご配慮から実現し、節目の年を見事に飾って頂きました。開館以来わずか五年目という早さで、国宝「楓図」の公開を実現したことは、当時の美術館界で大きな話題となり、石川県七尾美術館が全国的に注目されるようになってきました。そしてその頃より、長谷川等伯が美術の世界で、それまでよりも高く評価されるようになってきました。特に等伯の水墨画が持つ一種の叙情性が、従来からの漢画的手法の延長線上にある水墨画とは異なった、日本人独自在創造した世界であるとする評価によるものと思われます。

そうした等伯の水墨画というより、日本の水墨画の最高傑作が「松林図屏風」で、国宝中の国宝といわれる所以なのです。五周年の「楓図」を公開して以来、次は「松林図屏風」だとする話題が私共の耳に聞こえるようになってきました。ここ数年間は、まさにこうした声のプレッシャーを感じる日々の毎日でした。東京国立博物館の大変なご配慮で、十周年を記念し公開して頂くことが実現しました。何はともあれ、こうした機会は二度と実現できないと思っ

ています。作品の前に立つて大いに感動してください。多くの方々のご来館を心からお待ちしています。



長谷川等伯展 一能登から京へー
平成8年8月31日～9月29日開催

開館10周年記念・新七尾市誕生記念

「国宝・松林図屏風 長谷川等伯展」

4月25日(月)～5月8日(日)

【会期中無休】

◆第一・第二展示室

長谷川等伯(一五三九―一六一〇)は能登国七尾出身であり、当館では調査・研究はもとより平成八年度より毎年「長谷川等伯シリーズ展」を開催してきました。

今年、七尾美術館は開館十周年を迎え、このシリーズ展も十回を数えます。その記念の年に、日本を代表する各ジャンルの芸術家たちが国宝の中の国宝に選び、日本水墨画の最高峰と称される「松林図屏風」を展覧します。所蔵先の東京国立博物館でも三年に一度の公開とされる名作が、等伯の郷里七尾で公開されるのは、恐らく「最初で最後」とまで言われています。

また、今回は「松林図屏風」までの流れを紹介する意味で、二十七歳から五十一歳までの作品七点も展示します。

【能登から京へ・二十歳代～三十歳代】

この時代の等伯は、郷里七尾を中心に仏画などを描いて活躍していました。

現存する作品から、この頃すでに京都と行き来していたと推測されますが、三十三歳の時に養父母が相次いで亡くなっており、それ以降に妻子を連れて本格的に京都へ移り住んだと見られます。

上洛後の等伯は本法寺に拠点を置き、制作活動を行っていきます。本法寺には、その当時の住職を描いた「日堯上人像」が現存しています。その緻密な描写力はもちろんの事、「父道浄六十五歳」「長谷川帶刀信春三十四歳筆」の落款から、等伯研究で知られた土居次義氏が「長谷川等伯・信春

同人説」を提唱されるに至ったという、資料的にも重要な作品として知られています。



重文「日堯上人像」
本法寺蔵

【京都・四十歳代】
はつきりと四十歳代の年記のある作品は知られていません。ただ、主に狩野派が好んで使用した鼎形の「信春」印が捺された作品が三点確認されており、注目されています。

特に「陳希夷睡図」には狩野派の特徴も看取され、上洛後の一時期狩野派に学んだ可能性も指摘されています。しかし、狩野派と等伯の美意識は明らかに違うものであり、等伯は独自の表現を追求していくのです。

等伯と親交があった本法寺第十世・日通上人や千利休は共に堺の出身で、等伯の後妻である妙清も堺の出身です。当時の堺は大変栄えた商業都市で、多くの文化人たちが集う場所でした。茶の湯も盛んで、中国の画家たちが描いた名画が茶室の床の間を飾っていたと想像されます。等伯はそれらの名作に



県文「陳希夷睡図」
当館蔵

直に接し学び、そして後の長谷川派の基礎を築いたのかも知れません。

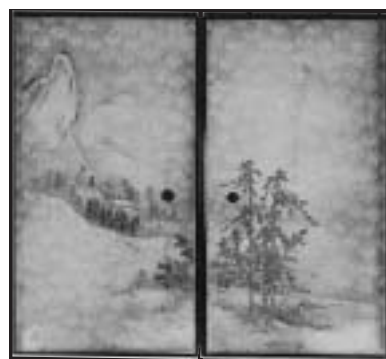
【京都・五十歳代】

五十一歳筆の「山水図襖」(現、圓徳院と榮家蔵)は、大徳寺三玄院住職の留守中に、周りの者が止めるのも聞かず等伯が一気に描いたと伝えら

れる作品で、過剰なまでの制作意欲と積極性が窺えて興味深いです。

翌年、仙洞御所障壁画の仕事が狩野派に阻止されますが、その翌年に狩野永徳が急死し、秀吉の長子・鶴松の菩提寺祥雲寺障壁画群の仕事が無い込みます。一派の総力を結集して制作しますが、その絶頂期に次々と人の死に直面します。その悲しみの中で描いたのが、「松林図屏風」だと言われているのです。

五十歳代から六十歳代にかけての等伯は、深い悲しみに見舞われながらも「松林図屏風」をはじめとする優れた水墨画を制作し、画家としては最も充実した時代だったとも言えるのです。



重文「山水図襖」
圓徳院蔵

【京都・六十歳～七十二歳】

等伯は六十歳代から「自雪舟五代」を名乗り、長谷川派の結束を固めていきます。ですが、この頃から線描は硬く荒さが目立つようになっています。

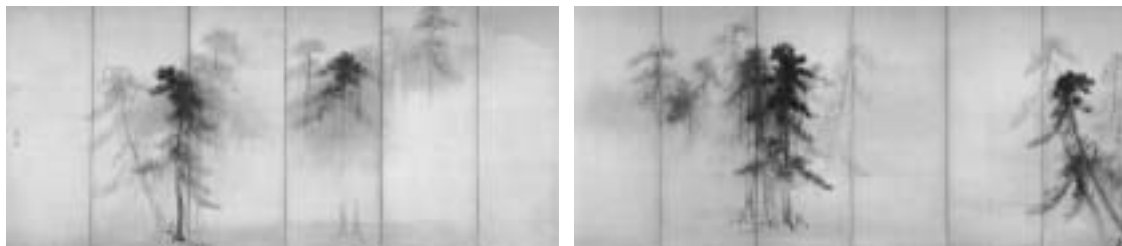
制作中の等伯が、慶長九年(六十六歳)十二月に高所より墜落し、右手が不自由になったという記録(『医学天正記』)に注目した山根有三氏は、以降の作品全てを弟子の筆と提唱されました。しかし、作品を見る限り、描けなかったのは六十六歳からの一二年程度で、多くの弟子を抱えていれば狩野派のように工房制作があるのも当然であり、それらの作品全てを弟子の筆とは考えにくいという解釈もあるのです。

慶長十五年、等伯は七十二歳の時に江戸に向かったと記録されています。恐らく、仕事とは言え後の長谷川派の命運をかけての一大決心であったと思われる。しかし、道中で病に罹り、江戸到着後二日目に亡くなったとされます。

【国宝・松林図屏風】

紙継ぎのズレや、捺されている「等伯」印が後印と見られること、それに加えて最近「月夜松林図屏風」（個人蔵）の存在が明らかとなり、草稿説や寺院内障壁画とする見解もあります。しかし、いづれにしてもこの絵の筆者は等伯以外には考えられず、研究者にも広く認められています。

描かれた松林は、強風に耐え細く立ちすくむ能登の松林にあまりにも似ています。祥雲寺障壁画制作で地位も名誉も手に入れた等伯ですが、利休が自刃、後継者である長男久蔵の死と、深い悲しみに襲われます。その時、心の中に映し出されたのは、郷里七尾の風景だったのではないのでしょうか。この絵は、等伯の心象風景であり、能登の原風景なのかも知れません。



国宝「松林図屏風」東京国立博物館蔵

★出品作品

- 一、△「日蓮聖人像」一 幅 七尾市・實相寺
- 二、□「善女龍王図」一 幅 石川県七尾美術館
- 三、◎「日堯上人像」一 幅 京都市・本法寺
- 四、□「愛宕権現図」一 幅 石川県七尾美術館
- 五、□「達磨図」一 幅 七尾市・龍門寺
- 六、□「陳希夷睡図」一 幅 石川県七尾美術館
- 七、◎「山水図襖」七 面 京都市・圓徳院
- 八、●「松林図屏風」六曲二双 東京国立博物館
- (●＝国宝、◎＝重文、□＝県文、△＝市町村文)

◆第三展示室

「開催記念写真コンテスト作品展」

「松林図屏風」を通して四百年前の能登の松林を、写真を通して現在の能登の松をお楽しみください。

〈共通観覧料〉

	一般	個人	団体
大高生	350円	700円	600円
			300円

※中学生以下無料、団体は二十名以上です。
※会期中、夜間7時まで延長（入館は6時30分まで）。

★★耳寄り情報

◆国宝「松林図屏風」特別公開記念事業◆

「五木寛之と辻口博啓が語る「松林図」と「等伯」」
日時：4月17日（日）午後2時～4時
会場：七尾サンライフプラザ大ホール
問合せ：七尾市教育委員会文化財課

☎ 0767（53）8437

等伯への造詣が深く、石川県にもゆかりのある作家とパティシエが熱く語ります。

◆「国宝・松林図屏風展」特別講演会◆

日時：4月29日（金・祝） 午後2時～
会場：当館アートホール
講師：松原茂氏（東京国立博物館上席研究員）
演題：「松林図屏風の魅力」
参加方法：聴講無料

友の会の皆様へ朗報！

◆会員限定特別鑑賞会のお知らせ◆

今回は自由観覧となります。特別鑑賞会の時間は30分のみですが、入場は会員様限定ですので、ゆつくりと「松林図」の世界をご堪能ください。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：第1回 4月30日（土）

第2回 5月1日（日）

※両日共、午前8時30分～9時

参加方法：当日、会員証を必ずお持ちになり、観覧券購入時に参加希望の旨お申し出ください。

※学芸員の解説はありません。

◆記念グッズ「第三展示室グッズコーナー」◆

松林図屏風グッズ

東京国立博物館運営協力会オリジナル
巾着袋、トートバッグ、Tシャツ
当館オリジナル

一筆箋、クリアファイル
等伯会オリジナル
色紙

便利堂オリジナル

ミニチュア屏風、絵ハガキ
※その他、各種等伯作品グッズもごさいます。



◆等伯オリジナルハイビジョン◆

等伯の作品を、ほぼ年代毎に収録した五本の静止画番組と、歴史的流れの中での等伯の軌跡を収録した動画番組一本をご覧ください。

◆遠方からのお客様へ◆

会期中、美術館入口のテント内では、七尾の物を販売する他、等伯会や観光ボランティアの方々が、市内の観光案内もして下さいます。

また、JR七尾駅から市内巡回シャトルバスを運行します。詳細はお問い合わせください。

今年の春は、まだまだ等伯！

「特別所蔵品展」

5月13日(金)～29日(日)

◆第一展示室～信春時代の等伯と長谷川派～

国宝「松林図屏風」特別公開の後も、より深く等伯と等伯作品に親しんでいただくため、第一展示室では引き続き能登時代の等伯作品四点と、長谷川派の仏画などを含めた九点を展示予定です。

★出品予定作品

- 一、□「善女龍王図」一 幅 石川県七尾美術館
- 二、□「愛宕権現図」一 幅 石川県七尾美術館
- 三、□「達磨図」一 幅 七尾市・龍門寺
- 四、□「陳希夷睡図」一 幅 石川県七尾美術館
- 五、△「涅槃図」一 幅 七尾市・長壽寺
- 六、△「白描涅槃図」一 幅 七尾市・成蓮寺
- 七、△「涅槃図」一 幅 石川県中能登町・山田寺
- 八、△「涅槃図」一 幅 石川県穴水町・来迎寺
- 九、「波龍図屏風」六曲一双 高野山・金剛三昧院

□＝県文、△＝市町村文

※一部、展示内容を変更する場合があります。

◆第二展示室～絵画の色彩を楽しむ～

第二展示室では、現代絵画約三十点を大きく三色の系統に分け、それぞれの魅力を紹介します。

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	280円	280円	220円

※中学生以下無料、団体は二十名以上です。

「等伯に続け！子ども水墨画展」

5月17日(火)～29日(日)

◆第三展示室

七尾市では、小学校三年生からの副読本『わたしたちの七尾』で、郷里を同じくする長谷川等伯について学びます。各学校では、それぞれ色々な形で等伯に触れ合っていますが、今回は国宝「松林図屏風」特別公開を記念して、今年三月に卒業した東部中学校生徒が等伯の「達磨図」をテーマに描いた水墨画(印章、額も制作)から約半数を、同じく三月に卒業した徳田小学校児童が、等伯の動物画に倣って描いた水墨画を展示します。

子どもたちの感受性豊かな作品を、是非ご覧ください！(観覧料は無料です)

「第61回現代美術展 七尾展」

6月3日(金)～26日(日)

◆第一・第二・第三展示室

「現代美術展」は石川県下で最大規模を誇る公募展です。その歴史も古く、戦後間もない昭和二十年十月に、第一回展が開催されました。以後、毎年継続され六十一回目を迎えます。

当展は県内在住の日本芸術院会員や重要無形文化財保持者(人間国宝)から、新進気鋭の作家まで幅広い層から出品され、出品委嘱作品に加え、入選率五〇パーセントという厳しい審査を経た作品、計約千点が展示されます。石川県における美術の流れを展観する絶好の機会といえるでしょう。

七尾展は昭和二十一年六月の第二回展が開催された後、平成七年四月の当美術館開館を機に、地方展という形で毎年開催され、今年で十一回目を迎えます。「現代美術展」入選作品の中から、能登地区在住者の作品、受賞作品、能登地区在住および出身委嘱作家、石川県美術文化協会役員の作品を選抜、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門で約二百点を展示予定です。

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	350円	300円	250円

※中学生以下無料、団体は二十名以上です。



昨年のお会場風景

アートホール催し物案内

第26回 等伯まつり

5月22日(日)

開演 午後1時

等伯顕彰セレモニー

・箏、三絃、尺八合奏 玉木社中 箏祥会

・献茶、献歌、献句 奥村社中・七尾文芸のつどい

・コーラス ドルチェママ

等伯子ども写生大会表彰式

入場料 無料

主催 等伯会

連絡先 等伯会 (石川県七尾美術館内)

☎ 0767 (53) 1500

第5回メロディーパレット

6月26日(日)

開演 午後1時

石田ゆかり門下生 (園児から高校生) による二

年に一度のピアノ発表会です。ピアノソロ、連弾、

ファミリーアンサンブルなど日頃の練習の成果を

発表致します。どうぞお聴きください。

入場料 無料

主催 石田ゆかりピアノ教室

連絡先 石田ゆかり

☎ 0767 (53) 4628

◆当館主催の催し◆

◇映画上映会【入場無料】午後2時

・5月21日 利休の茶(47分)

・6月11日 土と炎と人と

―清水卯一のわざ― (31分)

美術品取扱い講座

Ⅱ「軸」編Ⅱ

開催報告

去る一月三十日(日)

第三展示室特設会場にて、

子どもワークショップ以

外では初めての体験講座

を開催しました。当日は

雪の舞う寒い日であった

にも拘わらず、ご夫婦で

いらっしやった方、茶道

の先生、そのお弟子さん

など十二名の方が参加されました。

まずは所蔵品の掛け軸三点を前に、掛け軸本体

及び箱には様々な形態があること、軸を構成する

各部分の名称などを当館学芸員が説明。そして、

次は実践編。参加者がそれぞれ持参した掛け軸を

実際に矢筈を使い展示室に掛けてみました。

友白髪や秋草が描かれたもの、花鳥画など壁面

に並んだ軸には様々なものがあり、「良いお軸を

お持ちですね」と和やかに語りあう場面もありま

した。レクチャーの効果あってか、軸を巻き取り

箱に収める作業は、皆さん手際よく行っていました。

実践終了後は、学芸員の解説を聞きながら

『冬季・所蔵品展』をゆつ

たりと鑑賞しました。

初めての試みで不安も

ありましたが、参加者皆

様のご協力のお陰で冬の

ひとときを楽しく過ごす

ことができました。どう

もありがとうございました。



第6回 石川県七尾美術館

「友の会鑑賞の旅」

「開館10周年特別企画編」のご案内

参加者大募集!

おかげさまで当館は今年で開館から九十年たち、「友の会鑑賞の旅」も今回で六回目を数えます。そこで開館十周年と、まもなく開催する

「国宝・松林図屏風 長谷川等伯展」を記念して、今回は等伯ゆかりの寺院などを巡る一泊二日、京都へのバス旅行を企画しました。

見学予定地は等伯が上洛後に身を寄せたといわれる『本法寺』、等伯作のもう一点の国宝『楓図』を所蔵している『智積院』、ユニークなエピソードを持つ『山水図襖』を所蔵する『圓徳院』、等伯作品と長谷川派の襖絵なども所蔵する『永観堂禅林寺』です。

大きな夢を抱いて七尾から上洛し、水墨画の最高傑作と評される「松林図屏風」を世に残した等伯の足跡を辿ってみませんか?

皆様からのお申込みをお待ちしております!

◆日程 6月12(日)〜13日(月)

◆見学予定地 本法寺・智積院・圓徳院・

永観堂禅林寺など京都方面

◆参加費 三五、〇〇〇円

◆定員 (友の会会員以外の方は三六、〇〇〇円)

◆一次締切 25名(対象は原則として成人)

◆申込方法 5月15日(日)

参加ご希望の方は、電話にて

お申込みください。

☎ 0767 (53) 1500

※定員に達しない場合、旅行は中止となりますのでご了承ください。

平成十六年度 新収蔵品紹介

◆「池田コレクション」に新しい仲間加わる！

七尾市名誉市民の故池田文夫氏蒐集で、昭和六十三年に七尾市に寄贈され、当美術館建設の契機ともなった「池田コレクション」。

当館開館以降、計一四七点の「池田コレクション」は所蔵品の中核として、これまで展覧会で紹介してきました。

そしてこの度、当館開館十周年を記念してご遺族より新たに二三点の作品が寄贈されました。

新しい作品は日本画、彫刻、工芸が中心で、浮世絵美人画や九谷焼系列の陶磁器など、これまでの「池田コレクション」とは異なったジャンルの作品が多いのが特色です。

本作品については七月一日からの「池田コレクション」展「新寄贈作品初公開」で一斉に紹介予定です。お楽しみに！

①浮世絵「雪中美人図」 宮川長春

江戸時代（二七～一八世紀）制作

②浮世絵「納涼二美人図」 宮川長春

江戸時代（二七～一八世紀）制作

③浮世絵「美人図」 伝奥村政信

江戸時代（二七～一八世紀）制作

④浮世絵「地獄極楽図」 歌川国貞・英一珪

江戸時代（一九世紀）制作

⑤浮世絵「美人立姿図」 月下園豊政

江戸時代（一九世紀）制作

⑥浮世絵「美人蛭狩図」

江戸時代（二七～一八世紀）制作

⑦浮世絵「二人美人図」

江戸時代（二八～一九世紀）制作

⑧日本画「夕宵図」 菊池契月

明治～昭和期（二〇世紀）制作

⑨日本画「町の娘図」 寺島紫明

明治～昭和期（二〇世紀）制作



⑨「町の娘図」 寺島紫明



⑪「色絵山水図平鉢」 吉田屋窯

⑩日本画「勢多加童子図」 佐藤朝山

明治～昭和期（二〇世紀）制作

⑪木彫「土部」 山崎朝雲

昭和二十七年（一九五二）制作

⑫彫刻「銭屋五兵衛像」 都賀田勇馬

昭和七年（一九三三）制作

⑬木彫「不動明王像」 澤田政廣

昭和十五年（一九四〇）制作

⑭木彫「無憂華」 大内青圃

大正～昭和期（二〇世紀）制作

⑮木彫「金鶏鳥」 吉田秀鳳

昭和五十一年（一九七六）頃制作

⑯陶磁器「飴釉手桶水指」 伝初代大樋長左衛門

江戸時代（二七～一八世紀）制作

⑰陶磁器「色絵山水図平鉢」 吉田屋窯

文政十二年（一八二九）制作

⑱陶磁器「色絵龍桐文木瓜形平卓」 粟生屋源右衛門

江戸時代（一九世紀）制作

⑲陶磁器「彩色織姫人形」 清水七兵衛

江戸～明治期（一九～二〇世紀）制作

⑳陶磁器「色絵布袋山水人物図硯箱」 初代徳田八十吉

明治～昭和期（二〇世紀）制作

㉑陶磁器「白釉太白麒麟像」 十二代酒井田柿右衛門

昭和三年（一九二八）制作

㉒金工「金銀象嵌波兎文鐙」 桃山～江戸期（二七世紀）制作

北大路魯山人

㉓扁額「對松軒」 北大路魯山人

大正時代（二〇世紀）制作

※全て池田輝三郎氏より寄附

◆「池田コレクション」以外の新収蔵作品

①木彫「鳥」 田中太郎

昭和十一年（一九三六）制作

②木彫「田中シゲ（祖母）像」 田中太郎

昭和十八年（一九四三）制作

③木彫「天女」 田中太郎

平成四年（一九九二）制作

④木版画「女」 田中太郎

昭和後期（二〇世紀）制作

⑤木版画「平安」 田中太郎

昭和後期（二〇世紀）制作

⑥彫刻「曙」 川岸要吉

昭和五十一年（一九七六）制作

⑦彫刻「鏡に向かう女」 川岸要吉

平成十年（一九九八）制作

⑧彫刻「裸婦」 川岸要吉

平成十三年（二〇〇一）制作

⑨写真「能登半島・モントレー半島交流写真展」 川岸要吉

平成十三年（二〇〇一）制作

⑩写真「能登半島・モントレー半島交流写真展」 川岸要吉

平成十三年（二〇〇一）制作

⑪写真「能登半島・モントレー半島交流写真展」 川岸要吉

平成十三年（二〇〇一）制作

⑫写真「能登半島・モントレー半島交流写真展」 川岸要吉

平成十三年（二〇〇一）制作

⑬写真「能登半島・モントレー半島交流写真展」 川岸要吉

平成十三年（二〇〇一）制作

⑭写真「能登半島・モントレー半島交流写真展」 川岸要吉

平成十三年（二〇〇一）制作

⑮写真「能登半島・モントレー半島交流写真展」 川岸要吉

平成十三年（二〇〇一）制作

⑯写真「能登半島・モントレー半島交流写真展」 川岸要吉

平成十三年（二〇〇一）制作

⑰写真「能登半島・モントレー半島交流写真展」 川岸要吉

平成十三年（二〇〇一）制作



①「鳥」 田中太郎



⑦「鏡に向かう女」 川岸要吉

出品作品一〇点
昭和四十二～平成十四年制作
※七尾・モントレー友好協会より寄附



これからの展覧会予定



◆第1・2展示室

「池田コレクション展 ～新寄贈作品初公開～」 「夏季・所蔵品展 ～水のある風景～」

平成17年7月1日（金）～24日（日）

当館開館10周年記念として、七尾市名誉市民である故池田文夫氏のご遺族より追加のご寄附を頂きました「池田コレクション」の新作23点を一堂に初公開します。新たな「池田コレクション」の世界を是非ご観覧下さい。なお、同時開催として「夏季・所蔵品展 ～水のある風景～」を予定しています。



「色絵龍桐文木瓜形平卓」
粟生屋源右衛門

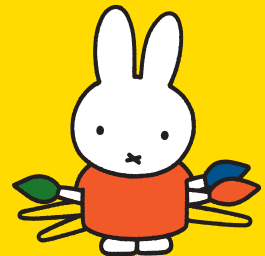
◆第1・2・3展示室

「美術館に行こう！～ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方～」

平成17年7月29日（金）～9月25日（日）（会期中無休）

ディック・ブルーナ（1927～）はミッフィー（うさこちゃん）の生みの親として知られるオランダのグラフィック・デザイナーです。“ブルーナ・カラー”と言われる6色から構成され彼の絵本は、シンプルにして最高の絵本として世界中で愛され続けています。今年、人気キャラクターであるミッフィーは生誕50周年を迎えます。それを記念して、本展ではミッフィーなどのキャラクターを中心にブルーナの足跡をたどり、またブルーナが影響を受けたモダン・アートの作品を、『ミッフィーのたのしいびじゅつかん』に沿って紹介します。さらに、『ミッフィーと遊ぼう』『作ってみよう』のコーナーもあり、親子で楽しみながら学べる展覧会です。

今年の夏はミッフィーたちに会いに“七尾美術館に行こう！”



Illustrations Dick Bruna
© copyright Mercis bv,2000

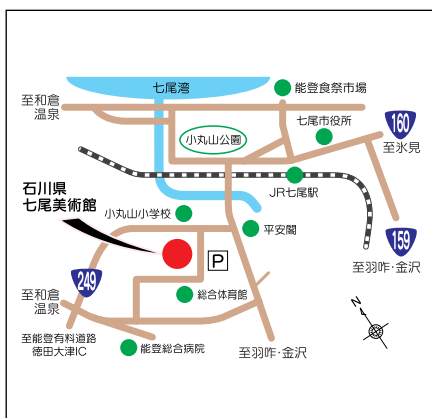
●友の会会員様へお知らせ●

【その1】国宝「松林図屏風」の一筆箋をプレゼント！

『国宝・松林図屏風 長谷川等伯展』会期最終日まで、平成17年度当館友の会ご入会の方へ、開館10周年と本展開催を記念して「松林図屏風」の一筆箋を進呈いたします。（入会申込み手続きをされた方に記念品引換券を差し上げますので、展覧会会期中にお引き換えください）

【その2】展覧会グッズが割引に！

日頃より格別なご支援をいただいている当館友の会会員の皆様に、感謝を込めて期間限定で展覧会グッズの特別優待割引をいたします。（購入時には必ず会員証をご提示ください。なお、割引対象外の商品もありますのでご了承ください）
例）国宝「松林図屏風」ミニチュア 6,300円（定価）⇒6,000円（会員価格）



交通案内

飛行機……能登空港より能登有料道路利用約45分

車……金沢より能登有料道路利用約1時間20分

タクシー……JR七尾駅より約5分

徒歩……JR七尾駅より約20分

市内循環バス……JR七尾駅より西回りに（まりん号）乗車約6分

なおコミュニティバス……JR七尾駅より西コースに乗車約10分（ぐるっと7セブン）

休館日のお知らせ

（4月～6月）

◆4月 4、11～24

◆5月 9～12、16、23、30、31

◆6月 1、2、6、13、20、27～30

◎次号・第42号（夏号）は7月1日発行予定です。